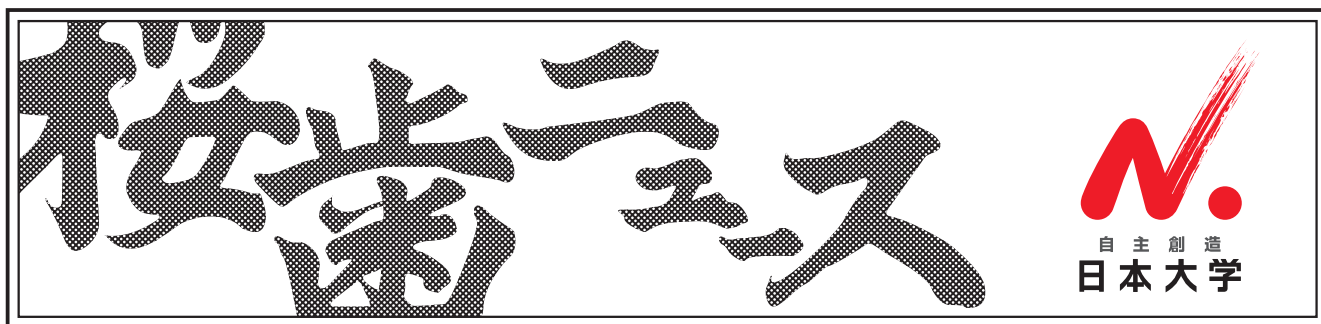




読書は、他人の頭で考える

図書館長 小室 歳信



子どもの頃、母から「戦時中はろくな本が手に入らなくて、国語辞書を読んだものよ」と、よく聞かされた。今は読む本が溢れているということらしい。辞書が読

み物とは恐れ入るが、書店で本を求めるたびにその言葉が頭を過る。見渡すと、たしかに溢れている。

この時代、書籍の新刊本の発刊は一日あたり2百数十点を数え、年間8万点に達する勢いである。これに、月刊誌や雑誌などを加えるといかほどか、正確な統計はないとも聞く。活字飢餓を強いられた時

代の人達にしてみれば、なんとも羨ましい限りということか。

若者の活字離れが言われて久しいが、学生諸君はいかがであろうか。校内のあちこちで、スマホやタブレットを食い入るように覗き込んでいる姿が目にとまる。電子書籍を読んでいる諸君もいるであろうから、活字離れが進んでいるとは一概には言い難いが、多少なりとも心配にはなる。

「読書は、他人の頭で考える」娯楽である。執筆者に成りきって読み進むことができ、やがて頭のなかで対話が始まる。賛成と反対とを繰り返しながら、自ずと自分の考えがまとまるのだから、楽なことこの上ない。そして、他人の頭を借りながら教養が身につくとなれば、これほど痛快なこともない。そのうち、人生の岐路に立ったとき、役立つ書物にきっと出会えることであろう。（教授 法医学講座）

日本大学歯学部教学推進センターの 設置について

学部次長・歯学部教学推進センター長 桑田 文幸



平成16年度から始まった第三者評価制度において、大学は文部科学大臣の認証を受けた機関(認証評価機関)による評価(認証評価)を受けることが義務づけられています。その目的は、評価結果を踏まえて、大学が自ら「教育の質保証」のための改善を図ることにあります。この認証評価は、大学の教育研究等の総合的状況の評価(機関別認証評価)と学部の教育分野の評価(分野別認証評価)に大別されます。

歯学教育の全国的な認証評価制度の発足に向けて、本年度では数校でトライアルが実施されています。教育の理念および目標、学生の受け入れ、歯学教育課程の内容・方法・環境、患者さんへの配慮と臨床能力の確保、成績評価と卒業判定、教員組織、点検・評価などの「教育の質保証」に関わる教学情報を各歯科大学・歯学部でデータベース化、公開する方向性が検討されています。

そこで、昨年(2015)の10月から日本大学歯学部教学推進センターが、歯学教育の専門分野別認証評価制度に備えて設置されました。組織をセンター化することによって、本学部の教学戦略・運営の専門部署として、教学に関わる短中長期の計画立案と効率性のある実施活動を行います。歯学教育の認証評価制度を視野に、本学部の教育改善を図り高度な教学機能を推進することを使命としており、現在、学内設置の各委員会ならびに附属機関との緊密な連携を図り、情報提供ならびに情報共有の環境整備の段階にあります。

学内の各部署からは、教授、准教授、専任講師、助教、特任教授が参加し、教学に関わる各項目の問題抽出を行い、数値目標等を設定して、全学的PDCAサイクルのもとで教育の充実化を推進します。また日本大学本部で実施予定の「日本大学共通教育科目(仮称)」の環境整備も行う予定です。

若手教員の直面する教育の現状と問題点を把握し、教学運営がPDCAサイクルのもとで改善され、さらに中長期的に本学部の教育ミッションである「社会に有為な歯科医師の養成」の具現化の基盤形成となるものと確信しております。本センターの活動を通じて、教育力の向上によって学生に夢と魅力ある歯学教育を実践することが到達目標となります。

関係者各位のご協力を切にお願いいたします。

(教授 基礎自然科学分野)

「Sustainability —持続性可能な発展のために—

病院長 宮崎 真至



本付属歯科病院は、医療機関、教育機関、研究機関ならびに地域医療支援機関として機能しております。これらの目的の遂行のために、医療系教職員を中心とした多数の職種の方々によって病院が運営されています。病院長として、

それぞれの職場で各目標に沿って十分な達成感が得られるような環境の整備を進めることが大切であると考えます。

もちろん、歯科病院としての目標あるいは機能は、限りある経済基盤のもとに実行されるものですから、病院組織として社会の要求に応じた優先順位や役割分担の見直しなどが常に必要となります。そのために、これまで1) 病院組織の見直し、2) 研修施設の充実、3) 医療系教職員の業務分担、4) 歯科病院の広報体制の確立、5) 病院財政の改善、などが推進されてきました。今後、これらに加えて、高度診療部門の設置、コ・デンタルスタッフの適正な人員配置、医療連携体制の確立、さらに教育面からは診療参加型臨床実習の充実などが課題として挙げられています。

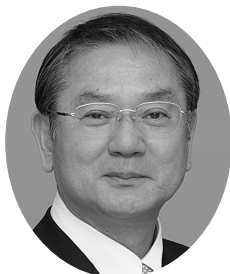
医療技術の進歩や病院情報の開示が進む中で、高度の医療機器や技術を必要とする診療が増大するとともに、診療を受ける患者サイドからも専門医志向が強まっています。一方、地域の診療所や医院で十分対応できるような軽度の症状であっても、歯科病院を受診するケースも増え、その医療ニーズは様々です。本病院では、教育病院という面からも患者の確保が重要となり、診療体制および教育組織の再改革も含め、限られた資源の中でニーズへの対応と教育への取り組みとが急務になっています。また、高度な歯科治療を提供する診療科として、歯科審美治療科、歯科インプラント科あるいは今後ますます増加するであろう摂食機能への対応など、高次の医療ニーズにも対応できるシステムを構築することで、本病院の差別化を図ることも必要となります。

これらを実現するためには、ここに勤務されている病院教職員、ならびに歯学部関係各位のご理解と、結束したご協力が必要であることは当然のこととなります。歯科病院のさらなる発展を目指し、教職員が一丸となって課題の解決にあたることを期待するとともに、そのような環境づくりに邁進する所存です。

(教授 歯科保存学第I講座)

充実した学生生活には奨学金の獲得

学生担当 祇園白 信仁



奨学金には、優れた能力を有する学生に対しその能力をさらに伸ばす機会を提供することが目的のもの(育英目的)と、経済的理由で学業継続が困難な学生に対しその継続を支援することを目的としたもの(奨学目的)があります。

本学部では、育英および奨学を目的とした下表に示す多くの奨学金制度があり、学生に学業に取り組む喜びを提供するとともに、勉学環境の向上を図っておりますので、学生生活の糧として獲得し活用して下さい。(教授 歯科補綴学第Ⅰ講座)

奨学金名称	種別	奨学金	対象及び人数
日本大学 特待生	給付 (甲種)	授業料1年分 及び図書費 (12万円)	全学年の中で成績が第1位の優秀者
	給付 (乙種)	授業料 1年分	2～6年次で成績が第1位もしくは第2位の優秀者4名・合計5名
日本大学 エヌドット 奨学金	給付	36万円	入学時の成績優秀者4名で1年次のみ支給
日本大学 歯学部 佐藤奨学金	給付 (第1種)	20万円	2～6年次で成績が日本大学特待生に次ぐ優秀者各学年1名・合計5名
	給付 (第2種)	10万円	2～6年次で成績が日本大学歯学部佐藤奨学金第1種対象者に次ぐ優秀者各学年4名及び学部に貢献した者5名・合計25名
日本大学 歯学部 同窓会 奨学金	給付	10万円	5～6年次学生の中で成績が優秀で人物が優れている者、または課外活動において顕著な成果を収めた者3名
公益財団法人 森田育英会 奨学金	給付	36万円	6年次学生の中で成績優秀な者1名
日本大学 歯学部 佐藤奨学金	貸与	授業料 相当額	5年次学生の中で学費の納入が困難な者1名
日本学生支援 機構奨学金	貸与 (第1種奨 学金・無 利息)	自宅通学者 月額54,000円 自宅外通学者 月額64,000円	1～6年次学生の中で学業・人物が優れ、経済的理由で修学が困難な学生71名
	貸与 (第2種奨 学金・有 利息)	月額3万円・5万円・8万円・10万円・12万円の5種類から選択	

大学院歯学研究科の次のステップは、さらなる“自主創造”の実践

研究担当 小宮山 一雄



歯学部は間もなく創立100周年を迎えます。この間に本学部が歯科界に送り出した研究成果には輝かしいものがあります。その一例として、歯科関係者なら誰でも知っている

西蓮寺永康名誉教授(現)のパノラマX線写真撮影装置や新井嘉則特任教授(現)の小型CT装置は、今や全世界の歯科や耳鼻科の診療現場で使われています。

本学部はいまから何十年も前から、今日の社会から研究者が求められているトランスレーショナル研究をおこなってきたのです。しかし本学部の大学院の将来に不安がないわけではありません。ここ何年も将来研究職をめざす学生が減少しております。また海外留学をめざす学生も減少しています。

現在、本学部の大学院生はそのほとんどが臨床系大学院生です。確かに彼らは、指導教員の下に論文を作成し、一定の評価を受けるインパクトファクターの付いた雑誌に投稿して学位を取得しています。ここ数年、彼らの書く学位論文のレベルも向上しており、その成果として、競争獲得資金である日本学術振興会が支給する国の学術助成金も受給件数が上昇を示しています。しかし、われわれは現状に満足するわけにはゆきません。学位研究で自ら目標を設定し実践できた学生や、独創的な研究成果を挙げた学生は何人いたでしょうか。これらの点は大学院指導者側の反省と意識改革のものと改善が必要でしょう。大学院生の多くは学位研究が終われば、せっかく習得した実験技術も捨てて研究室を離れてしまいます。研究者をめざす学生は極めて少数です。臨床では、研究より専門医資格のニーズが高いのです。将来、彼らに再びトランスレーショナルな研究成果や知財獲得を求めるには、大学院と歯科病院が一体となった研究環境作りが必要と考えます。日本大学の目的である“自主創造”を実践する卒業生を数多く歯科界へ送り出すことが大学院の使命です。大学の次の100年に向けて、改革をいとわず進まなくてはなりません。(教授 病理学講座)

歯学教育モデルコアカリキュラムで 学修の確認

共用試験運営委員会

委員長 中島 一郎

カリキュラムは、教育内容を学習段階に応じて配列し、学修終了時に期待される目標、方略および評価の言葉で示されます。まず目標ですが、一般目標と行動目標に分類されます。一般目標とは、学習成果です。例えば「～を理解する、～を修得する、身につける、知る」などの表現が使われます。行動目標は、一般目標が到達できたことを示す行為のことです。例えば「述べることができる」、「記述することができる」、「行なうことができる」、「実施することができる」等の動詞で表されます。方略は、講義、演習や実習などの授業方法、評価は、行動目標の試験方法を示します。教科のシラバスには、上記の情報が含まれます。

歯学教育モデルコアカリキュラムでは、歯科医師として求められる基本的な資質を定め、歯学生が卒業までに最低限履修すべき教育内容をまとめられています。コアカリキュラムは、基本事項、社会と歯学、生命科学、歯科生体材料と歯科材料・器械、臨床歯学教育、臨床実習の各項目から構成され、一般目標と行動目標(到達目標)で記載されています。＊印が表示されている到達目標は、臨床実習開始前までに習得すべき知識・技能・態度等の教育内容で、共用試験の出題範囲です。

コアカリキュラムの内容は、大学独自の教育とともに学年の教科に含まれます。本学部では、学生中心の観点から、全国の歯科大学・歯学部在先駆けて歯学教育モデルコアに沿って科目群や教科を各学年に配置してきました。各学年のシラバスに記載された「人間科学」、「基礎科学」、「生命科学」、「口腔科学」、「総合科学」などの各教育区分は、コアカリキュラムを想定して学生諸君の修得する内容が歯科医師となるための学修を順次性をもって体系化したものです。

新年を迎え、後期の終了時期になります。新学期を迎える前に、学生諸君には、どのくらい学修したのかコアカリキュラムに目を通して、確認されることをお勧めいたします。(教授 医療人間科学分野)

平成26年度 第1回 医療安全研修会・ 院内感染予防研修会

副病院長・医療安全管理委員会

委員長 植田耕一郎

平成26年度の第1回医療安全研修会および院内感染予防研修会が、11月11日(火)に歯学部大講堂と研修医講堂にて開催されました(参加者363名)。

医療安全研修会は、「現在の運用と今後について」と題して、本年度より院内の診療器材の衛生管理等を務めてくださっている株式会社リジョイスカンパニー主任の大貫幸二氏と馬場敦弥氏から①PPE(個人防衛具)②洗浄③滅菌④開封後の扱いという4つの側面から当歯科病院における医療安全管理の現状と課題についてお話を伺いました。

また院内感染予防研修会においては、「標準予防策(スタンダードプレコーション)を基本とした感染対策」という題目で、スリーエムヘルスケア株式会社医療用製品事業部グループの看護師でいらっしゃる宮下有希氏から標準予防策の実際、眼への血液・体液暴露からの防護、針の取り扱い、安全な注射処置について事例を含めながらの研修が行なわれました。

学生参加型教育が求められ続けている中で、臨床の現場はより煩雑さを増しています。安全管理を徹底するのは大事なのですが、現場の負担感が増すばかりでは、患者さんにも良い影響は生まれません。今後もこうした研修会を通じて、より効率的な医療管理、安全管理が行えるよう努めていきたいと思えます。(教授 摂食機能療法学講座)

人権侵害防止に係る巡回公演会

日本大学では、セクシュアル・ハラスメント等人権侵害のない良好な就学・就業環境を維持するためにガイドラインを制定し、人権侵害の防止・解決に取り組んでいます。

人権侵害について理解し、人権意識の向上を図ることを目的とし、昨年10月3日(金)に、光廣 真理恵先生をお招きし、人権侵害防止に係る巡回講演会が開催されました。「ハラスメントのない、教育・研究・職場環境をめざして」と題し、パワーハラスメントの現状や、予防・解決方法について、具体的な事例を取り上げ講演され、162名の教職員が参加しました。

歯学部では、人権侵害防止に係る講演会を定期的に実施し、今後とも人権侵害の防止に取り組んでいきます。

随 想 足掛け3年を振りかえる

事務局長 若松 俊雄



私は平成24年10月の桜歯ニュースで「100周年の節目に向けて」の巻頭に三点実行することを約束し、足掛け3年取り組みました。この三点について自己点検評価をしたいと思います。

1. 財政基盤の確立

財政は人件費が問題です。まず、はじめに学部・病院の派遣、臨時職員の雇用は原則雇止めとし、教員の採用については教員定数の見直しをお願いしました。職員の新規採用は隔年とし、退職者の補充を再検討し、業務委託を見直して職員定数を定め、人件費の削減に努めました。

次に冗費の節減です。病院の医療材料・消耗品の発注を一元化するために材料室を廃止し、中央材料室を設置しました。学部の物品調達・委託契約も見直し、競争原理を働かせて契約料を改定、無駄をなくすることに努めました。また、財管システムの導入により予算管理を行うようにお願いしました。徐々に改善していますが、まだ取り組まなければならない課題があり、採点としては50点です。

2. 新病院・新校舎の建設

平成28年に迎える創設100周年記念事業として歯学部が新校舎を駿河台の地に建て替える場合、法人の総合的施策による医学部駿河台病院跡地(借地)、及び隣接する歯学部2号館(歯科病院)敷地(借地)を一括使用する方法しかありませんでした。そして歯学部1号館の敷地を法人が利用する。その代わり土地の賃借料の一部を法人が負担することに合意しました。

平成25年4月から基本設計が始まり、平成26年8月に実施設計が終わりましたが、2020年東京オリンピック開催決定によって建築費が高騰したことにより、申請した工事予算額を上回りました。基本計画策定に多くの課題を残したという意見もありますが、私はこの計画が本部のお茶の水キャンパス総合開発計画であるため、全体工程を優先させました。これは計画通りに実行しなければなりません。新病院・新校舎の建設には6年の時間がかかります。厳

しい財政状況になりますが、がんばって校舎を作りましょう。教職員が心をついに歯学部の夢を共有してほしいと願っています。永年の課題が実現しますので60点とします。

3. 入試改革と入学志願者増加

歯学部の志願者は10年前からすると全体で50%減少していると思います。平成26年度は日本大学が行うN方式入試、新たに公募制推薦入試を導入し、ホームページ等のリニューアルを行い、昨年6月には教職員が附属高校を訪問し、7月に進路担当教員に対する説明会を開催しました。また、全国の同窓に学生募集のお願い文書を出しました。その結果本年度は志願者が478名で94名増加し、推薦入学・校友子女入学者を合わせると、全体で537名となりました。教職員の皆さんが頑張ってくれた結果です。ただ、平成27年度は国家試験の合格率が下がったこと等により、志願者が少なくなる可能性があります。評価は40点となりました。

以上三点評価しましたが、足掛け3年、心を鬼にして取り組みました。教職員の皆様にはお世話になりました。引き続き組織全体で経営改善に取り組んでください。

では ごきげんよう



歯学部4号館校舎

日本大学歯学部創設100周年記念事業 日本大学歯学部新校舎・新歯科病院

本学部は創設100周年を契機に、狭隘な現行施設から脱却するため、新たなキャンパス造りに着手します。その中核は新校舎及び新歯科病院の建設です。駿河台日本大学病院と歯学部2号館を合わせた約4,800m²の土地に、地上7階、地下2階の建物を建設します。

建物の延床面積は約26,000m²、鉄骨造一部鉄筋コンクリート造で、日本大学が開発した制振装置を付加することで、大地震や大災害にも耐え得る強靱な建物となり、学生に安心で、かつ安全な学習環境を提供します。

新校舎・新歯科病院建設のコンセプトは次の3つです。

1つ目は、「お茶の水学生交流空間」です。学生が集まる地域の風景を創りだします。

2つ目は、「教育」「研究」「臨床」の融合です。各分野の動線を短縮し、それぞれの部門同士の機能分担を明確にすることで、融合へとつなげます。

3つ目は、地域に愛着を持ってもらえる「風景づくり」です。文教地区にふさわしい建物として、周辺施設となじんだ建物となるようにします。

工事工程は、日本大学病院の開院に伴い、駿河台日本大学病院の機能が移転しましたので、その跡地に新歯科病院棟を建設します。新歯科病院棟には病院機能のほかに歯学部1号館の一部の機能が入ります。その後、歯学部2号館を解体し、その跡地に新校舎棟を建設します。新校舎棟には歯学部1号館の残りの機能と歯学部3号館から講義室と実習室が入



北東側から見た外観透視図

ります。新歯科病院棟は平成29年に完成、新校舎棟は平成32年に完成し、最終的には1棟の建造物として全面完成する予定です。

新歯科病院棟

歯科病院は新歯科病院棟の1階から4階までの階層に配置します。

1階は、口腔診断科、摂食機能療法科、歯科放射線科、管理課です。

2階は、保存系診療科、小児歯科です。

3階は、補綴系診療科、矯正歯科です。

4階は、口腔外科、特殊歯科、手術室、病室(24床)となります。

5階と6階には、臨床系の講座ラボを配置します。

最上階(7階)の展望が良い場所に、約400名を収容できる大ホールを配置します。ここでは開講式や学位記伝達式の式典のほか、学会・シンポジウム、公開講座など多目的に利用できるようになっています。

地下1階は、歯科保存学系及び歯科補綴学系の実習室のほか、食堂を配置します。地下2階は、機械室になります。



歯科病院待合（新歯科病院1階）



大ホール（新歯科病院7階）

新校舎棟

新校舎棟の2階と3階に講義室を配置します。150人定員の講義室を合計6つ設け、1年生から6年生まで、全ての学生が新しい講義室で勉学できるようになっています。また、座席にゆとりをもたせるとともに机のレイアウトも自由に組み変えが可能で、ニーズに合った多様な用途に対応可能となっています。

4階は、化学・生物学系の実習室を配置します。

5階から7階までは、基礎系の講座ラボと材料・組織系、細胞系、動物系の実験を行う共用ラボを配置します。

1階と地下1階は、少人数教育や共用試験(CBT)の実施も可能なラーニングコモンズ型の図書館を配置します。地下2階は、患者様用の駐車場です。



南側テラスを見た外観透視図



図書館（新校舎1階）

エコキャンパス

新校舎・新歯科病院の照明はLEDを主体とするほか、高効率機器や人感センサー等の採用により、エネルギー消費の低減に努めます。特に講義室の照明はセンサー制御とし、日光が入る窓際の照明点灯率を下げて負荷の低減を図ります。また、雨水の再利用水と井戸水をトイレの洗浄水として使用し、エコキャンパスを目指します。

本学部は「教育」「研究」「臨床」が融合した50年後も地域に愛着をもたれるキャンパスを目指し、学生が主体的に学習を励み、知識習得の意欲高揚が図られる環境を創出します。

日本大学歯学部創設100周年記念事業募金

本学部では、付属歯科病院の整備及び学部における教育研究診療活動の基盤整備(教育研究用施設設備整備費充実)の資金とすることを目的に、日本大学歯学部創設100周年記念事業募金をお願いしております。

つきましては、本募金の趣旨をご理解いただき、特段の御協力を賜りますようお願い申し上げます。



東側から見た外観透視図



北東側上より新校舎模型

平成26年度 臨床研修歯科医師選考試験について

卒後教育担当 石上 友彦

本学部附属歯科病院臨床研修歯科医師の選考試験は 8 月30日に実施されました。採用定員140名のところ、学外からの志願者を含め、総数216名の受験者がありました。本学部の選考試験は、学内外を問わず心身ともに健康で向上心のある優秀な人材の選考を目的としております。近年、学外からの応募者数が増加傾向にありましたが、今年は例年より試験日程を約 1 か月程度遅くしたためか、全受験者は約30名減少しました。

本学部の選考試験は「書類審査」と「小論文」「面接」に加え今年度から「筆記試験」を導入いたしました。本学部生にとっての「書類審査」と「面接」に該当するものは「学部成績」と「生活態度」で学生生活全体を評価しています。「学部成績」には 5 年次までの「学業成績」に加え「再試験の頻度」や「留年」などが含まれます。また「生活態度」は「授業態度」をはじめ「出欠席状況」・「クラブ活動」・「学内外における学校行事への参加状況」・「表彰歴」などを総合的に判断いたします。

平成18年度より歯科医師臨床研修が義務付けられたことから、歯学部生にとって「選考試験」は一種の「就職試験」と考えることができます。本学部での研修を希望する学生は、低学年より有意義で充実した学生生活を送っていただきたいと思います。また、新規に導入された「筆記試験」や「学業成績」に対応するうえで、より一層日々の自主的な学習に取り組んでいただきたいと思います。

本歯科病院にマッチングした方の出身は以下の通りです。

プログラム 1（募集定員95名）：

本学部84名（既卒者33名）

他大学11名

プログラム 2（募集定員45名）：

本学部41名（既卒者10名）

他大学 4 名

本歯科病院にマッチングした方はもちろんのこと、本学部の 6 年生全員が歯科医師国家試験に合格し、平成27年度の歯科医師臨床研修を開始できることを祈念致しております。

（教授 歯科補綴学第Ⅱ講座）

平成26年度 第1回 歯学部FD講習会実施について

— 歯学部における認証評価への対応 —

昨年、10月30日に第 1 回歯学部FD講習会が歯学部 1 号館大講堂で共用試験運営委員会、学務委員会、FD委員会の企画のもとで開催されました。教育に携わる全教職員を対象としており、講堂には多数の参加者が聴講しました。

講習会のテーマは、「歯学教育における認証評価制度の動向」で、講師は、大阪歯科大学障害者歯科教室の中嶋正博 教授です。現在、日本の医学部・歯学部が国際標準の教育を実施していることを証明することを目的として、大学改革推進等補助金により「医学・歯学教育認証制度等の実施」が事業としておこなわれていますが、中嶋教授は幹事委員をされています。講演では、認証評価制度の意義、基本的な考え方および認証評価の項目、基準および観点などについて説明されました。これらは、歯学教育の認証評価に関するシンポジウム等で、公開された情報に基づいていますが、あらためて我が国の歯学教育のおかれた現状や、18歳人口減少化、大学教育の国際化などとの関連からのお話でしたので、本学部の教育改革の方向性について示唆に富んでいました。歯学教育の認証評価制度に関する本学教職員の意識の更なる向上を図れたものと思われました。

平成26年度教育診療医研修会報告会

臨床実習運営協議会委員長 宮崎 真至

標記の報告会が、昨年10月10日（金）2 号館第 1 講堂において、127名の参加者のもとに行われました。報告会では、前野学部長の挨拶の後、中嶋一郎教授による歯学部の認証評価に関する講演に続いて、研修会各班の代表者による成果の報告が行われました。「初診から終診までを視野に入れた診療参加型実習への取り組み」をテーマとして、診療参加型実習のための具体的な改善策が発表され、現在の臨床実習のシステムを大幅に見直す方向性が示されました。次世代に向けた臨床実習システムの改革が、実施されることとなります。

（教授 歯科保存学第Ⅰ講座）

父母懇談会

昨年10月11日(土)に歯学部父母懇談会が開催されました。参加父母が多数の為、受付時刻を早めての開始となりました。全学年で学年主任・クラス担任ほか多数の先生方により、個人面談が行われ、カリキュラム改変、子女の学校生活や出席状況等の話がされました。終了後は、銀座アスターにて全学年合同の懇親会が開催されました。



進学相談会



昨年10月25日(土)に歯学部及び附属歯科技工専門学校・衛生専門学校合同、11月27日(木)には附属歯科技工専門学校の進学相談会が開催されました。当日は、適性試験・入試科目・小論文等、入試に関する質問が多くみられました。平成26年度歯学部進学相談会は計5回開催され、総来場者数は、611名でした。

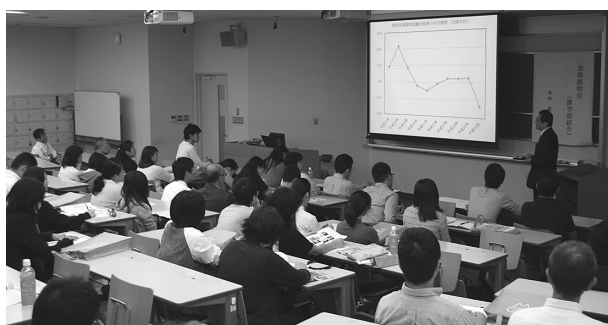
なお、附属歯科技工専門学校については、平成27年1月19日(月)及び2月19日(木)も開催されます。

会場：歯学部 1 号館 18:00～21:00

※ 事前要予約

専門学校事務室 03-3219-8007

予約先メールアドレス de.ts@nihon-u.ac.jp



学部進学相談会



歯科技工専門学校模擬授業

平成26年度 第2回 歯学部公開講座

口腔保健と全身の健康シリーズ(37)

岡田 明子

昨年11月1日(土)に平成26年度第2回公開講座が開催され、「原因不明の舌の痛み—舌がヒリヒリ痛んだことはありませんか—」の演題で講演させていただきました。当日はあいにくの雨にもかかわらず、103名の方にご来聴いただきました。舌痛症がテーマであったためか、中高年の女性が大半を占めておりました。講演後の質疑応答も活発であり、多くの方が舌痛症で苦しんでおられることを再認識させられました。

(准教授 口腔診断学講座)



平成26年度

第2回 生涯学習講演会のお知らせ

生涯学習シリーズ(17)

テーマ：がん患者の口腔ケアと医療連携 その3
よく分かる口腔がん発生・進展の機序

講師：草間 薫 教授
(明海大学歯学部 病態診断治療学講座)

日時：平成27年3月7日(土)
13:30～15:30

場所：歯学部第3講堂(4号館3階)

皆様のご来聴をお待ちしております。

詳細は歯学部ホームページに掲載
お問い合わせは庶務課(03-3219-8001)まで。

桜歯祭を終えて

実行委員長 本澤 潤一



10月24日、25日に桜歯祭を無事終えることができました。各クラブが参加して熱気に包まれた腕相撲大会にカラオケ大会、大講堂で立ち見が出る程の大盛況だった芸能ライブ、軽音楽部、DJによる演奏とビンゴ大会で盛り上がった

中夜祭に後夜祭…。他にも色々な企画がありました。参加していただいた方々の思い出になって頂けたら幸いです。

今年度は委員長という立場になり、組織を仕切ることの難しさ、桜歯祭というイベントを運営するという事の大変さを知るとともに色々な人に支えてもらっているということを実感し、大変貴重な経験をさせていただきました。

最後に桜歯祭を行うにあたりご協力をいただいた先生方、学校職員の皆様、そして実行委員のみなさん本当にありがとうございました。(第4学年)



桜歯祭実行委員
の皆さん

総務に就いた当初は、その大役に戸惑いや焦りを感じていましたが、共に桜歯祭を造り上げた実行委員たちに支えられました。大きな問題もなく円滑な運営を遂行することができたのは、彼らが積極的に桜歯祭に参加し進んで仕事を探してくれたお陰です。今後の桜歯祭がより良いものになることを期待しています。(総務 4年 小沼 佳織)

今年はパンフレットの表紙デザインを募集したり、各企画の配置を変更したりするなど、委員で意見を出し合って準備を進めてきました。また、今年は会計を担当し、先生や学生課の方々と話す機会も多く、充実した日々を過ごすことができました。4年間委員を続けてきて良かったです。(会計 4年 長田 彩佳)

今回、私は桜歯祭の渉外を担当しました。これまでも実行委員をしてきましたが、幹部となって、しかも大学の外の会社との交渉といった経験は初めてだったので、とても緊張しました。今年はソラシティなどの会社にも協賛を呼びかけたこともあり、去

NU祭を終えて

実行委員長 長島 優太



今年度のNU祭は、例年同様『いちにち歯医者さん』を開催しました。例年に比べて実行委員の数が多く、また、駿技祭、翔衛祭の各実行委員と協力して2日間円滑に運営することができました。おかげさまで、学内だけでなく一

般の方にもたくさん来て頂き、大盛況となりました。NU祭に遊びに来てくれた沢山の人に、歯科治療に使用する器具や材料を使った企画を通じて、普段触れることの少ない歯科の世界を身近に感じてもらえたようです。また、来場者アンケートでは「歯科へのイメージが変わった」「学生の対応が良かった」という意見が多く、これも実行委員全員の努力の成果だと感じています。

NU祭の開催にあたり、ご指導・ご協力頂いた教職員の方々、諸先輩方、そして実行委員のみなさんに深く感謝致します。本当にありがとうございました。(第5学年)

年よりも多くの会社に協賛していただいて本当に良かったです。(渉外 4年 長村 彩香)

昨年、桜歯祭の楽しさに気づいてしまった私は、今年、副委員長として桜歯祭に参加しました。たくさんの場面で楽しむ人を見ていたら、とても幸せな気持ちになりました。このハビネスをもっともっとたくさんの人に届けられるように、先輩方から学んだことを活かし、最高の桜歯祭を作っていきます！みなさん、乞うご期待!!

(副委員長 3年 小泉 舞)

初めての桜歯祭実行委員でいきなりの副総務という大役を任せられ、強く感じた事は、どうして今まで実行委員をやらなかったんだろう！という気持ちでした。それほど、この行事はやりがいがあり、楽しいものでした。また、楽しさの裏には多くの方々の支えがある事も知りました。来年度はより良いものになるように頑張りたいと思います。

(副総務 3年 石井 久賀)

歯学部図書館特別展示 「それぞれの物語」

図書館事務課

今年度は標記のタイトルのもと、歯科医師の個人史関連資料を中心に、2年後に100周年を迎える本学部の歴史についても取り上げました。本学部の歴史については、写真、年表、本学部の前身である東洋歯科医学専門学校の設立認可申請書(東京都公文書館所蔵)の複写物を展示しました。また図書館に寄贈された戦前から現代までの卒業アルバムを並べ、「桜歯ニュース」30年分の記事を、Evernoteというウェブツールを用いて全文検索できるようにしました。歯科医師の個人史については、歯科医療に名を刻む先生たちの資料をプロフィールパネルとともに展示し、現代の歯科医師についても幅広い出版物から人物史、エッセイ等をかき集めてみました。自分の「物語」を作り上げていくうえで、先人あるいは身近な先輩の軌跡を参考にすることは励みになるでしょう。図書館は、未来へ続く「それぞれの物語」を支えるための存在として機能していきたいと考えています。



駿 技 祭

実行委員長 山林 慎



今年の駿技祭は例年と比べて準備に取り掛かるのが遅くなり、時間が足らず、慌ただしいものとなりました。その中で早く来られる人は早く来て、それが難しい人は遅くまで残って準備をし、無事間に合わせることができました。当日は、例年同様さまざまな

お客様や先生、学生の皆様にお越しいただきました。アクセサリ、ロウソクともに好評いただき、ほぼ完売することができ無事駿技祭を終えることができました。反省点は準備期間をしっかりと設けることができずアクセサリの種類を用意することが出来なかったことです。来年度は早く準備を始め新しいデザインのものを販売できればいいなと思いました。(技工専門学校第2学年)

翔 衛 祭

実行委員長 高木 和沙



翔衛祭では1・2年生で、TBI(歯磨き指導)とポップコーンの販売を行いました。

TBIは、NU祭との合同企画として参加させていただきました。普段との雰囲気の違いに緊張しつつも、楽しみながら指導を行いました。

ポップコーンの販売は、来場された方の目につく場所に機材を設置したことで目を引くことができました。また、来場された方の「おいしい」という言葉で温かい気持ちになると同時に、翔衛祭を皆で作上げた喜びを感じました。

(衛生専門学校第2学年)

2年生の学生生活について



第2学年 星 安里紗

2年生になり、もうすぐ1年が経とうとしている。少し早いと感じながらもいま振り返ってみると、自分が想像していたよりも時間に余裕があったように感じる。過ぎてしまったことだから気軽な記憶となってしまうだけなのだろうか。そう言えば確かにテスト前日になれば毎度のように「時間がない、困った。」などと思っていた。しかし単純に考えると、実習が増えた分、授業が終わるのが早いし、土曜日の午前にテストや講義があると起床時間が早い分、1日が長くなった。また実習では専門の先生方が何人も立ちあってくださるので、実習中に、講義内容の疑問が残ることが大幅に少なくなり、テスト前には、実習書のなぐり書きのメモを見ればなんとなく流れが掴めた。

2年生は大変だ、とよく聞いていた。確かに学ぶことがとても増え、私にとっては大変な1年であった。しかし初めての知識を目の前にした私たちには、先生方から授業を通して、初心者でも理解出来るような言葉と流れに変えて与えていただける。またそのような授業で聞き逃した言葉があると、少し悲しい気分になったものだ。

これから学年が上がるにつれて、勉強も難しくなるのであろう。でもなんとかめげることなく進んでいくために、まずは授業を真剣に受けてみようと思う。どんなに天才的すごい歯科医師でも、最初は私たちと同じように学生であった。私たちと同じように授業を受けていた。ありきたりな言葉ではあるが、聞くたびに私は希望をもらう。授業の受け方のような基本的なこと1つでも、その天才に近づけるかもしれない。そんな思いを忘れずに、これからも頑張っていきたい。



CBT・OSCEに向けて

第4学年 高橋 奈央

CBTまで残り30日を切りました。

4年の後期は大変だよと先輩方から聞いていた通り、1日中実習の日があったり、勉強が難しかったり、レポートがホチキスでは留まらないほどの枚数になったり、クラブがあったり…。毎日が慌ただしくあっという間に1日が終わり、家に帰ったら疲れ切って「寝たい！」そんな生活に追い討ちをかけるかのようにCBTやOSCEの日が近くなり、最近では朝早く学校に来ている同級生や、放課後に図書館で勉強する同級生の姿を見るようになりました。みんないつもお疲れ様！

そんな中、影ながら動いてくれているのが研修小委員会のメンバーです。週に2回昼休みを使ってみんなにCBTの問題を出して解説したり、補講をしたり、模試を開催したり…。学年全体をまとめていくのは大変ですが試行錯誤しながら頑張っています。学年みんなも協力してくれるのでみんなありがとう！

また、先生方は私たちのために貴重な時間を割いてご指導してくださっています。厳しい意見をいただくことも多々ありますが、実際の臨床の場にあがった時に役立つことがいっぱい日々勉強になっています。最近では今までの知識が全て繋がってきて1つ1つ考えて実習をするようになりました。少しずつですが歯科医師という夢への意識の高まりを感じます。

私たちの学年は今年度の球技大会で総合優勝しました。みんな一丸となって戦い応援し合い、優勝した時の喜びを今でも忘れられません。やる時はやる団結力の強い学年だと思っています。今年からCBTの合格点が65点に上がり不安でいっぱいですが、この団結力を生かしてみんなの意識をさらに高め、4月には全員で院内にあげられるように頑張っていきたいと思っています。



リーダーズキャンプ

クラブ協議会会長 小林 玄和

今年度も例年通りリーダーズキャンプが11月29日に日本大学歯学部1号館大講堂にて行われました。クラブ協議会が中心となり、各クラブの代表者、正評議員、各実行委員長を交えた会議および報告会を1日かけて行いました。

今年度のリーダーズキャンプでは、新入生の勧誘や規約、第47回全日本歯科学学生総合体育大会、各クラブから出された議題などについて話し合いました。その中でも勧誘については部員減少に悩むクラブが多い中で、新たなルールや方法を考え、話し合い、積極的な議論が行われました。今後も主将会議で来年度の勧誘方法については更に協議していきたいと考えています。

普段、全く異なる活動を行っているクラブが一堂に会し、今後のクラブのあり方について話し合う場は他には代え難いものです。また、リーダーズキャンプの最後に行われた懇親会も先生方や先輩、後輩と交流できる貴重な場となりました。自分も各クラブとの交流から、クラブ協議会会長として各クラブが円滑な運営を行えるように、全力でサポートしていきたいと思います。

最後になりましたが、祇園白先生をはじめ、お世話になりました先生方、学生課の皆様、ご指導、ご協力ありがとうございました。(第4学年)



バドミントン部

主将 堀内 一生

バドミントン部は週2回という少ない時間の中で、学年や男女で分け隔てなく楽しみつ、関東歯科リーグやオールデンタルに向け切磋琢磨しています。今年は9名の新入生が入り、さらに活気が増しています。これからも大会で好成績を残すべく精進していきたいと思います。至らぬ点など見受けられるかとは思いますが、先生方また関係者の皆様に於かれましては引き続きご支援、ご協力、並びにご指導の程宜しくお願い致します。(第3学年)



解団式を終えて

西原 宏軌

昨年10月9日の解団式をもちまして第46回全日本歯科学学生総合体育大会は終了しました。解団式にて大会を振り返り、互いに健闘を称え合い、次の目標について再確認することが出来ました。今大会は総合準優勝でしたが、第47回大会がもうすぐ始まると思っています。日本大学歯学部が一致団結し全員の力を合わせ、再度総合優勝の座に返り咲けることを心よりお祈りしています。(第5学年)

平成26年度学生クラブ加入率

26. 7. 1 現在

学 年	学 生 数	加入者数 ／ 未加入者数	加 入 率 (%)	加入者内訳 (兼部含む延べ人数)			
				体育会		文化会	
				男子	女子	男子	女子
1	140	126/14	89	57	50	17	19
2	145	112/33	77	46	45	21	13
3	139	109/30	78	53	31	12	20
4	114	99/15	87	56	29	13	11
5	128	102/26	80	53	27	18	9
6	110	89/21	81	46	26	13	7
計	776	637/139	82	311	208	94	79



オピニオン



☆ 冷たい風が頬にあたり、思わず鼻をすすする。もうそんな時期になってしまった。入学してから9ヶ月。その9ヶ月前と変わらないのは気温だけ。僕のはあの頃とは違う。なぜなら素晴らしい先生、切磋琢磨できる仲間、支えてくれる家族に背中を押してもらい充実した生活を送っているからだ。あと5年ダラけるな俺！
(1年 関東 翼)

☆ 私は、入学してから、サッカー部のマネージャーとして活動しています。一生懸命サッカーをしているプレイヤーさんや、それを支えるマネージャーの先輩方を見ると、私も頑張らなければ……！と気が引き締まります。大学生活で出会った信頼できる素敵な先輩方を目標として、これからも精進して行きたいと思います。
(1年 元山 愛梨)

☆ 2年生の勉強は先輩方の言っていた通り大変だった。しかしそれ以上に驚いているのは、後期に入ってから2年生のやる気である。皆が危機感を持って協力して勉強している。朝早く登校する人が多く、休み時間も真剣に勉強している姿は1年生の時には見られなかった光景である。2年生は大変！大変！と言われているが、この光景を見ると皆で乗り切れる気がする。皆で学年を上げて、一緒に国試合格できると良いなと心から思えることがとても嬉しい。
(2年 小野 敏英)

☆ 2年生になり、1年生の時とは比べ物にならないくらい忙しくなりました。毎日のようにテスト勉強やレポートの課題をこなしていく中で、前期で学習した解剖学を後期では人体解剖実習でさらに知識を深めました。また、口腔に関する科目が増えてきたりして大変ではあるもののやりがいを感じる事ができて、昨年よりも楽しく勉強ができて自分に驚きます。年々厳しくなる歯科医師国家試験に合格するためにも今からしっかり知識を身につけていかなければいけないことをひしひしと感じます。
(2年 深井 麻希)

☆ 勉強やクラブの忙しさを言い訳に読書をする機会が少なくなっている私だが、近頃、母の知人から読み終わった本を廻してもらったことがあった。世代も趣味も異なる人が選んだ本は、新鮮で刺激的である。これからは時間を見つけ、色々な本を読みたいと思う。
(3年 芳根 明子)

☆ 早いことに3年生も終わりが近づき、勉強もクラブ活動も6年間の折り返しに差し掛かっています。そんな勉強やクラブ活動で忙しい毎日を過ごしていますが、充実していると確信しています。残りの学生生活も後悔のないように過ごしたいと思います。また日々の生活を楽しく彩ってくれる仲間や先生方に感謝しています。
(3年 金子 大佑)

☆ 謹んで新年のお慶びを申し上げます。寒さも一段と厳しくなった今日この頃です。4年生は今年度も協力し合い、まとまりのある1年を過ごせていると思います。自分自身も家族や周りの人たちに助けられ感謝しています。もうすぐCBT！それに向けての勉強は勿論、体調管理に気をつけ、皆で頑張っていきたいと思う！
(4年 原田 祥平)

☆ 4年生にもなると専門科目が増えてきて、将来への道も少しずつみえてきた。今僕は総義歯に興味を持っている。だから去年「咬合の理論」の科目を全力で取りにいった。しかし落とす。悔しかった。周りに冷やかされた。そして今年の前期「総義歯」の試験。全力で取りにいった。…勝負には勝った。嬉しかった。将来への道に一步近づいた瞬間であった。
(4年 細井鴻之介)

☆ 院内服に袖を通し登院式を迎えてから早いもので9ヶ月が過ぎた。4年間机上で学んだ知識を臨床の場にてより深く理解し、今だからこそ見えてくる、好奇心・探求心に心躍らされる毎日である。先生方に自らの将来の姿を重ね合わせながら、歯科医師としての責任の重さ、それ以上にコミュニケーションの大切さを改めて感じている。導いて下さる先生方への感謝の気持ちを忘れず、日々目標に向かって邁進していきたい。
(5年 宇佐美優希)

☆ これまで患者として見てきた医療現場に、いち医療人として関わるようになってから9ヶ月。院内実習も終盤を迎える時期にきた。患者さんひとりの生命に携わる事への緊張感をもって毎日白衣に袖を通して。これまでの机上の学習に加え、マニュアルの無い人間コミュニケーション力を試され鍛えられる場ともなっている。叱咤して下さる厳しい先生方は、我々未熟学生にとっての宝である。折れずに幾度とも叱られ克服する者と、そうでない者との差も生じているかもしれないが、やはり将来の歯科医療を支えていく我々が、もつべき責任感を育む貴重な毎日であることは全学生に共通である。残す実習期間は少ないが、患者さんに敬意を払い、実り多い1日1日を過ごせるよう身を引き締めて精進したい。
(5年 福田 淳)

☆ 学校への愛や、国家試験への意気込みなどは、とてもじゃないけど150字では語り尽くせないので、学校徒歩圏内で自分の好きなラーメン店を挙げます。つじ田、つじ田味噌の章、大至、極や、二郎、さとう、武蔵野アブラ学会、饗くろ喜。時間があつたら是非行ってみてください。あ、国試がんばります。
(6年 林 哲司)

☆ ちょうど1年前1人の男の子が産声をあげました。彼の名は瑛心、僕の甥にあたる。初めて会ったとき彼はこう言いました。「あああうー」…そう、母の通訳によると「おじちゃん小学校に入るときランドセル買って？」と言ったのです。僕は心に決めました。彼の第一大臼歯が生えるまでに最高級のランドセルを買えるほどビックな歯医者になろうと。彼のためにも必ずや国試に勝ってきます。(6年 種市 良宣)

佐 藤 会

昨年11月16日(日)に、本学部創立者の佐藤運雄先生のご遺徳を称えて毎年開催している佐藤会が行われた。当日は本学部ならびに同窓会より役教職員が佐藤先生の菩提寺の青松寺へ墓参し、13時から式典を大講堂で挙行了。全国から同窓会員と参列者一同が参集し、名誉会員記贈呈、叙勲者表彰、佐藤賞授与が行われた。14時30分から弁護士の方像雄氏による「モンスターなんか怖くない」～患者等による迷惑行為に対する対処法～と題し特別講演を行った。本年度の佐藤賞は学内から「新規歯内治療用セメントの開発に関する基礎的研究」で林誠先生(歯科保存学第Ⅱ講座、学38)に、学外から「身元確認の実際とその訓練」で千葉県開業の江澤庸博先生(学28)に授与された。

同窓会より学生(準会員)へ白衣のプレゼント

同窓会常任理事 新井 智

同窓会は学生(準会員)に厚生文化事業として奨学生、文化祭、全日本歯科学学生体育大会等に援助をしています。さらに今年から4年生の登院前の学生(準会員)へ病院で使用する白衣をプレゼントすることにしました。

そして、その白衣贈呈の式典は9月8日正午から前期試験の終了後に大講堂に於いて開催されました。式典は前野学部長より同窓会への感謝のお言葉が始まり、次に小幡会長より4年生全員を代表して本澤潤一君へプレゼントとして白衣を贈呈しました。最後に黒沼厚生文化担当副会長よりこれまでの同窓会と学生とのつながり、このプレゼントに至った経緯等の説明がなされ短時間ながらも厳粛にこの式典が行われました。

学生はこれから登院までは多くの試験が続くでしょう。また、登院してからも厳しい臨床実習があります。この同窓会からの白衣を着て頑張っていたきたいと願うばかりです。

*** **

附属専門学校から

*** **

歯科技工専門学校

本校は夜間であることから、年齢、性別もバラバラな学生たちが日々通っています。時間的なハンデがある中、学生たちは歯型彫刻の技術を競う大会に積極的に参加し、研修生が優秀賞を3年生が最優秀賞をそれぞれ受賞しました。

1、2年生は日頃の勉強だけでなく、球技大会ではドッジボールや綱引きに汗を流し、また駿技祭では、技工士らしくアクセサリやろうそくを作製し、販売しています。

最終学年の3年生は、臨床模型実習として病院の技工物を製作すると共に国家試験の全員合格に向け、お互いに切磋琢磨し、夢に向かって邁進しています。



歯科衛生専門学校

平成26年11月4日に日本大学歯学部1号館大講堂において前野正夫歯学部長をはじめとしたご来賓・ご父母の方々を迎え、日本大学歯学部附属歯科衛生専門学校第56期生(2年生)戴帽式が行われました。生徒一人一人がキャンドルの明かりの中で歯科衛生士憲章を復唱し、厳粛な雰囲気の中、式典は終了しました。第56期生37名は国民の健康に寄与すべく、これから約1年間の病院実習に対する決意を新たにしました。また、3年生は現在、特別研究論文の作成、就職活動とともに国家試験全員合格を目指し忙しい毎日をおくっています。



解剖体追悼法要に参列して

若松 賢吾

昨年10月18日(土)、築地本願寺にて、篤志により医学教育、医療の発展のために御献体された方々の追悼法要が行われました。

故人の医学の発展のために御身体を捧げるという考えに深く感謝し、解剖学実習により一層真摯に取り組む、多くの知識を身に付けなくてはいけないと改めて感じました。また、御遺族の方々におきましても故人の御遺志とはいえ、ご家族を献体として送り出すことはとても辛いことだったと思います。そのような中、御遺志をご理解ご協力して頂いた御遺族の方々に深く感謝申し上げます。

解剖学実習は歯学部生にとって初めて踏み入れる医療の場であり、生命の尊厳に真摯に向き合う貴重な経験です。実際に御献体に触れ、教科書の内容の理解を深めることはもちろん、教科書を読んだだけではわからない複雑な人体の構造を立体的に理解することができました。また、御献体と真摯に向き合うことで、歯科医師に必要な道德観や倫理観を養うこともできました。

こうして私たちが解剖学実習を行い、多くのことを学ぶことができたのも、ご指導下さる先生方や献体してくださった故人、御遺族などの御厚意のおかげであると存じます。私たちは支えて頂いている多くの方々に対するこの感謝の気持ちを将来、歯科医師となっても忘れることはありません。御献体を通して生涯忘れることのない貴重な経験をさせて頂いた故人や御遺族の御厚意を無下にすることなく、立派な歯科医師になることで故人の御遺志に応えることができるよう、これからも学問に精励していきたいと思います。

(第2学年)



海外派遣研修

石島 学

平成25年4月から約1年半、日本大学大学院海外派遣奨学生としてアメリカのUCLAに留学する機会を頂きました。アメリカは牛肉が安くステーキばかり食べていたら太ってしまったというトラブルもありましたが、研究を中心に充実した日々が過ごせたと思います。アメリカでの留学生活でしたが、アジアからヨーロッパまで多国籍な環境であり、違った文化を見聞きたことは楽しく、とても貴重な経験をさせて頂いたと感じております。

(大学院4年生 歯科補綴学第Ⅱ講座)



アジアフィンスイミング選手権大会出場

昨年11月4日～9日にタイプーケットで開催された第14回アジアフィンスイミング選手権大会に笠茂鈴乃さん(第2学年)が出場しました。200mSF、400mSF(サーフィス)の2種目において自己ベストタイムを更新し8位に入賞しました。次の目標は7月に行われる世界選手権日本代表と日本記録の更新です。今後ますますの活躍が期待されます。

2年連続甲子園ボール出場



日本大学PHOENIXが2年連続でアメリカンフットボール大学日本一を決定する甲子園ボウル(12月14日)に出場しました。相手は昨年に続き関西学院大学、伝統の赤と青の一戦となりました。有輪七海君(第3学年)はキッカー／パンターとしてチームを盛り上げましたが、関西学院大学の4連覇を阻止することはできませんでした。

News Plus α

☆齋藤毅先生に瑞宝中綬章

秋の叙勲で齋藤毅名誉教授が瑞宝中綬章を受章され、伝達式が11月10日に行われました。

齋藤名誉教授は、本学部の出身で昭和48年4月に本学部教授(歯科保存学第Ⅱ講座)に就任。平成17年1月名誉教授。本学部においては附属歯科衛生専門学校長、付属歯科病院副病院長、歯学部次長の要職にあり、教育、研究、臨床に従事。学生教育に関しては、歯科保存学(歯内療法学)を担当し、歯科医学の実証に基づく理論と診療実技の啓発教育に専念し、今日行われているような少人数グループ制の実習を採用し教育効果の向上に尽力されました。特に歯科保存学においては多大な貢献をされました。代表的な研究は、根尖病巣の免疫学的研究でありその成果は今日の教科書など成書に収録されています。

永年にわたり専門領域で優れた研究業績をあげるとともに、歯科医療の現場においても多大な功績を残しました。今回の受章はわが国の歯科医学に関わる学術の進歩と教育の充実発展に寄与した功績が高く評価されたものです。歯学博士 80歳



★その他各種受賞者

- 野口邦和准教授が日本登山医学会から奨励賞を授与されました。
- 尾崎哲則教授が健やか親子21全国大会において公益社団法人母子保健推進会議会長表彰を授与されました。

☆第47回歯学体冬期部門結団式

昨年12月11日(木)18時から1号館大講堂にて行われ、役教職員、クラブ顧問の参列の下、関係クラブ学生が総合優勝奪回に向けて健闘を誓い合った。

★自衛消防訓練の実施

昨年10月7日(火)16時より付属歯科病院2階保存修復科医局から地震に伴う火災発生の想定で避難誘導・消火訓練等が行われ、歯科病院関係教職員が多数訓練に参加した。訓練終了後、神田消防署係官から講評を受けた。

☆図書館開館時間の延長

昨年の11月1日(金)から本年1月30日(金)までの間、平日の開館時間が21時から22時まで1時間延長される。